

# 茶病害虫防除情報

令和 2 年 7 月 2 日

【第 10 号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

## 茶園を傷める 第 2 世代クワシロカイガラムシ防除対策

今年の鹿児島の梅雨は、前半はやや降雨が少ない状況に移りましたが、後半になり、大雨の日が多くなってきました。茶園の病害虫防除対策面では梅雨明けが何時頃になるか気掛かりです。農家の皆様には三番茶の摘採も早場産地から始まってきますが、蒸暑い気候の中ご苦労様です。今回は第 2 世代クワシロカイガラムシの防除適期など防除対策についてお知らせします。

### ☆ 発生概況・・・発生時期 「並」 発生量 「並」

第 1 世代虫の発生状況は、県病害虫防除所の調査では発生圃場率 33% (平年 35%) で、平年並み、また、発生程度の寄生株率は 12.4%(平年 17.2%)でやや低い状況で、被害の大きい茶園は少ないようです。第 2 世代幼虫の発生は、発生予察情報(7 月)では発生時期が「並」、発生量は「並」の予報ですが、被害が大きかった頃に比較すると発生は少ない状況です。

現在殆どの地域が産卵末期～ふ化期の状態で、早い地域ではふ化最盛期が近まっています。これから梅雨明け、降雨が少ない状況になると定着が多くなり、発生被害は増加します。

本会でやる発生圃場の寄生枝採取による防除適期調査は、発生圃場が少なく調査は殆ど不可能でした。このため県病害虫防除所の有効積算温度による県内数地点の防除適期(ふ化最盛期)予測値を参考にし、これまでのデータ、傾向等から大まかに各産地の防除適期を予測しました。

平均気温を利用した防除適期予測では第 1 世代ふ化最盛期から概ね 65 日後頃が第 2 世代のふ化最盛期になります。早場地域 7 月 1～3 半旬、中間地域 7 月 3～5 半旬、遅場地域 7 月 4～5 半旬と予想されます。

### ☆ 防除対策

防除適期は幼虫ふ化最盛期から約 5 日後頃迄です。これより早すぎて産卵の時期や、遅れて幼虫がロウ質の介殻で覆われるようになると効果はありません。防除の前に幼虫のふ化状況を調べ、防除適期を確認して防除します。防除時期が三番茶摘採期と重なり、防除が難しいと思われませんが、この世代の発生は加害時期に晴天・乾燥が続くため、茶園は枯死や衰弱が激しくなるので、発生が多い茶園では摘採をやめ、防除効果が上がる深刈などの更新を行って是非防除を行ってください。

表 1 クワシロカイガラムシの第 2 世代時期における薬剤防除法

防除時期	防除薬剤	使用濃度 (倍)	使用基準	使用上の留意事項
第 2 世代幼虫 ふ化最盛期 (7 月上～下旬)	スプライト <sup>®</sup> 乳剤 40	1000～1500	14 日 1 回	ふ化最盛期～5 日後頃までに散布する。 第 1 世代に使用していない。 中切り、深刈りなど更新後。
	ダース <sup>®</sup> バン乳剤 40	1000	14 日 2 回	
	アプロート <sup>®</sup> エスフロアブル マシ油剤 ハーベストオイルなど	1000 100～150	14 日 2 回 5～9 月 ー	
雄繭発生期	スプライト <sup>®</sup> 乳剤 40	1000～1500	14 日 1 回	ふ化最盛期 18～24 日後。

## 産地別のクワシロカイガラムシ防除適期の目安

**超早場産地**（枕崎市鹿籠 志布志市志布志 志布志市原田 鹿屋市高須・浜田など）

7月1－2半旬

**早場産地**（枕崎市中原・茅野 南九州市知覧南部 南九州市穎娃 志布志有明野神  
鹿屋市東原 錦江町大根占 南さつま市金峰など）

7月1－3半旬

**やや早場産地**（南九州市知覧中部 穎娃谷場・瀬谷 南さつま市東山  
志布志市有明風八重など）

7月2－3半旬

**中間産地**（南九州市知覧中北部 川辺 南さつま市東山 日置市 鹿児島市松元  
志布志市伊崎田 曾於市大隅・末吉 出水市など）

7月3－4半旬

**やや遅い中間産地**（薩摩川内市入来・樋脇 さつま町 霧島市溝辺 曾於市財部など）

7月3－5半旬

**遅場産地**（南九州市知覧後岳 霧島市牧園 湧水町栗野など）

7月4－5半旬

※ 各茶園の防除適期（ふ化最盛期）は地域内でも地形、栽培管理条件などで夫々異なる  
ことがありますので、防除を実施する園は雌成虫の寄生枝を採集し県地域振興局、JA  
の担当者などに防除適期調査を依頼し、防除を行ってください。